

対中政治対話再開へ

直行便定期化に全力

台湾新総統に馬氏

【台北11河崎真澄】22日に投票された総統選で今年1月の立法院(国会)に続き、強大な権限を持つ総統職も野党の国民党に委ねる選択を下した台湾住民の関心は、行政と立法を一手に握った国民党政権がいつ、どのような形で中国との対話に乗り出すのにか移った。「台湾独立」路線が遠のいたことで、国民党は中国共産党を交渉のテーブルにつけさせることに自信をみせる。国民党政権はまず、総統選の公約だった「三通」(中台間の通信・通商・通航の直接開放)で最後まで残された空と海の直行便の1年以内の定期化に向け、中国との政治交渉に全力をあげる。

■台湾政治の主な歩み

| | |
|------------|----------------------------------|
| 1949年12月 | 国民党政権が台湾へ移動 |
| 86年9月 | 初の野党、民主進歩党(民進黨)結成 |
| 96年3月 | 初の総統直接選挙で国民党の李登輝氏圧勝 |
| 2000年3月18日 | 総統選で民進黨の陳水扁氏当選 |
| 01年12月1日 | 陳政権下初の立法委員(国会議員)選で民進黨が第一党に |
| 04年3月19日 | 陳総統、呂秀蓮副総統が銃撃され負傷 |
| 20日 | 総統選で陳氏再選。初の住民投票実施 |
| 12月11日 | 立法委員選で野党連合が過半数獲得 |
| 05年3月26日 | 中国の反国家分裂法制定で、100万人抗議デモ |
| 12月3日 | 統一地方選で民進黨大敗 |
| 06年2月27日 | 陳総統、中台統一を前提とした国家統一委と国家統一綱領を事実上廃止 |
| 12月9日 | 台北市長選で国民党、高雄市長選で民進黨候補が勝利 |
| 08年1月12日 | 立法委員選で野党国民党が圧勝 |
| 3月22日 | 総統選で国民党の馬英九氏が勝利 |

(共同)

中台間の政治対話は陳水扁政権時代の8年間、完全に途絶えていた。中国側が陳政権を交渉相手としなかったことが理由だ。しかし中国へはすでに10万社近い台湾企業が進出、家族も含めると1000万人以上に達している。中台の年間往来数は延べ450万人に達する。今回の選挙への投票のために、中国から25万人が台湾に戻ったとの情報もある。中国経済



22日、台北市内にある馬英九氏の選挙本部前で歓声をあげる支持者たち(ロイター)

済に寄りかかる台湾人が加速度的に増える中で、現実問題として国民党の対中交渉力に期待が高まった。2005年5月に初訪中し、中国共産党の胡錦濤総書記と会談した国民党の連戦主席(当時)は「中華意識」を強調。国民党と共産党の「第三次国共合作」も連想させた。ただ、抗日戦争時代に国民党が軍事力で

共産党にやや勝っていた時代の「第一次、第二次国共合作」と異なり、現在は圧倒的な経済規模で、共産党の中国が国民党の台湾の先を走る時代になった。国民党は自由貿易協定(FTA)に近い概念の「兩岸(中台)共同市場」推進も公約に掲げ、先行する経済ノウハウや技術を武器に、「台湾の主体性を維持して対中政治交渉を進めると主張する。しかし下野する民進黨が「一中市場(一つの中国に台湾がのみ

「達まれてしまう」との批判を強めるのは確実だ。実際、連戦氏以後の国民党の対中交渉は「政党内話し合い」のレベルにとどまっているのが実情。台湾を「自国の一部分」とみなす中国側が、国民党政権を「政府」と扱う可能性は極めて少ない。国民党がめざす航空協定や共同市場実現のための関税の取り決めなどのために、私たちは必要犠牲を払うことにやぶさかでない」と語った。台湾ビジネススマンを優遇する政策を充実させる意思を表明したものの、国民党の勝利で中台間の経済交流も一層発展しようだ。

独立後退に中国安堵

【北京11天板明夫】台湾改善交渉をいかに始めるの総統選挙で、「中国は」かと大きく転換されると主張する野党国民党の馬英九候補が当選した。昨年秋の党大会以後、中台と中国は大きな安堵感と覚悟に達していない。中国の指導者は台湾問題に関与したくない。中国の「武力行使」や「問題の解決を無期限に先延ばしにできない」など、これまで性も浮上した。中国の対台激的な言葉を控えた。台湾の動きをいかに食い止めるかを中心にしてきたが、国への反発を生み、総統選「馬総統」の誕生で「関係選挙で民進黨を利すること

【台北11長谷川周人】台湾総統選の最終盤で争点として急浮上したのが、中国で起きたチベット騒動だ。選挙結果を左右するには至らなかったが、対中政策をめぐる野党論争が先鋭化する中、中国との「最終統一」を掲げる最大野党・国民党に対し、「独立」が党是の与党・民主進歩党の謝長廷候補の舌戦は白熱化。両陣営とも中国の「武力弾圧」への反発で一一致するが、対応は微妙に異なり、チベット騒動は中台兩岸関係の複雑さを改めて浮き彫りにした。

国民党の従来の路線に沿えば、チベットは「中華民国」の領土に含まれる。チベット擁護の立場をとる民進黨とは異なり、馬氏は「中華民国総統」としてチベット独立は簡単には容認できない。これをとらえて民進黨は連日、一党独裁が生む中国の政治的脅威に警鐘を鳴らし、チベット擁護の

チベット問題 関心薄く

緊急集会を開催。謝氏は「チベットの今日は台湾の将来だ。馬氏が当選すれば台湾総統は軟弱化する」と批判し、中台の「共同市場構想」など対中融和を原動力に「台湾再生」を目指す国民党の政策を牽制した。

しかし特に民進黨が基盤とする台湾中南部ではチベット問題への関心は希薄で、選挙結果を突き動かす力にはならなかった。

これに対し馬氏は今月17日の会見で、国際世論と協調する姿勢を表明したのに続き、翌18日、チベット騒動をめぐる中国の横暴を批判する声明を発表。その中でチベット人への武力鎮圧の中で中国共産党を叱責する②鎮圧が続き、情勢悪化があれば当選後、北京五輪のボイコットも排除しない」と主張した。

今後、チベット問題は馬英九新政権と中国当局の対立点となる可能性もある。

中台の緊張緩和

日本政府は歓迎

馬英九氏の当選について、日本政府高官は22日、「中台関係のテンション(緊張)を下げる意味でよかったかもしれない」と述べた。また、中国訪問中の中川秀直元自民党幹事長は「選択に従い、台湾問題を平和的に解決するようにやってもうかがうのが望ましい」と語った。

懸念したとみられる。温家宝首相は18日の記者会見で、「台湾同胞の利益のために、私たちは必要犠牲を払うことにやぶさかでない」と語った。台湾ビジネススマンを優遇する政策を充実させる意思を表明したものの、国民党の勝利で中台間の経済交流も一層発展しようだ。